

協働ワーキング 発表用スライド

高齢者を地域で支える仕組みづくり

- | | | | |
|---------------|-----|---|----|
| 1 . 高齢者 チーム | ... | P | 2 |
| 2 . 高齢者第2グループ | ... | P | 26 |

子どもの成長を地域で支える仕組みづくり

- | | | | |
|------------------|-----|---|----|
| 1 . 切れ目ない チーム | ... | P | 46 |
| 2 . くるキッズ チーム | ... | P | 54 |
| 3 . チーム Child | ... | P | 72 |
| 4 . 皆の力をかりよう チーム | ... | P | 80 |

市民参画による久留米市の魅力発信の仕組みづくり

- | | | | |
|-----------------------|-----|---|-----|
| 1 . ちゃりんこレンジャー チーム | ... | P | 87 |
| 2 . マーガレット チーム | ... | P | 110 |
| 3 . 多様な主体が魅力を発信する チーム | ... | P | 118 |



高齢者のふれあい交流支援

ぶらりよってこ カフェ プロジェクト



高齢者①グループ

リーダー：保坂昌孝

綾戸麗子・江上憲一・芹田隆子・辻摩夕実

松田眞由美・野田国広・河原菊子

現状・問題点①

地域の身近な所で交流する場がない

気軽にふらっと
立ち寄れる
場所があれば
行くけど



自宅から
遠いサロンは
行きたくない・・・

現状・問題点②

支援するボランティアや担い手が少ない
支援する側の負担が大きい

若い担い手が
いない！
高齢者が高齢者を
支援している



1人何役も
こなしているのが
現状！

成り手がいない。
もう何年も
なんとか頑張っている

現状・問題点③

呼びかけても交流に参加されない方や
参加したくてもできない方がいる



行きたいけど・・・
足が不自由で
お迎えがあればなあ

一人で気楽に
過ごしたいから
サロンには行かないわ



目指す姿

高齢者が身近な場所で
ふれあい交流することで、

住み慣れた地域において
安心・安全に暮らすことができる。



<提案する取り組み>

高齢者の交流の場の設置



ぶらりよっぴか



ぶらり よってこ カフェ とは？

自宅から歩いて行ける
高齢者が気軽に集える場所



ぶらり よってこ カフェ プロジェクト 3つの取り組み

支え合いの
地域づくり

気軽に集まれる
場所づくり



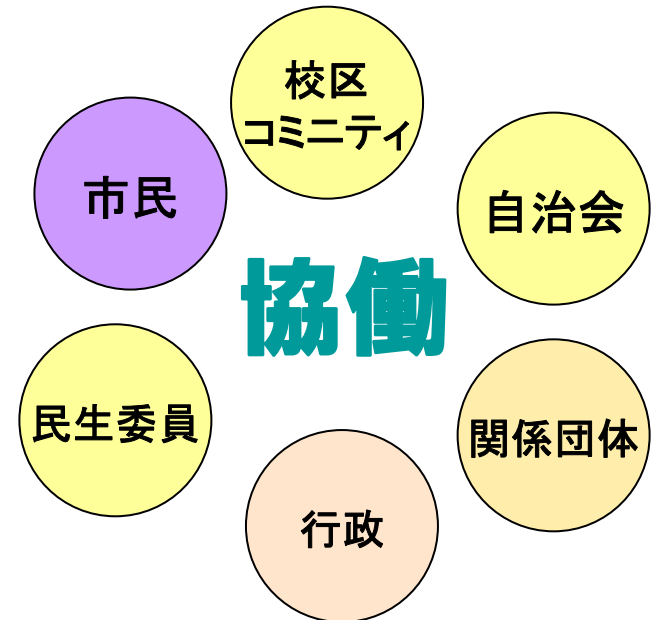
高齢者を支える
人財を育む

取り組み①



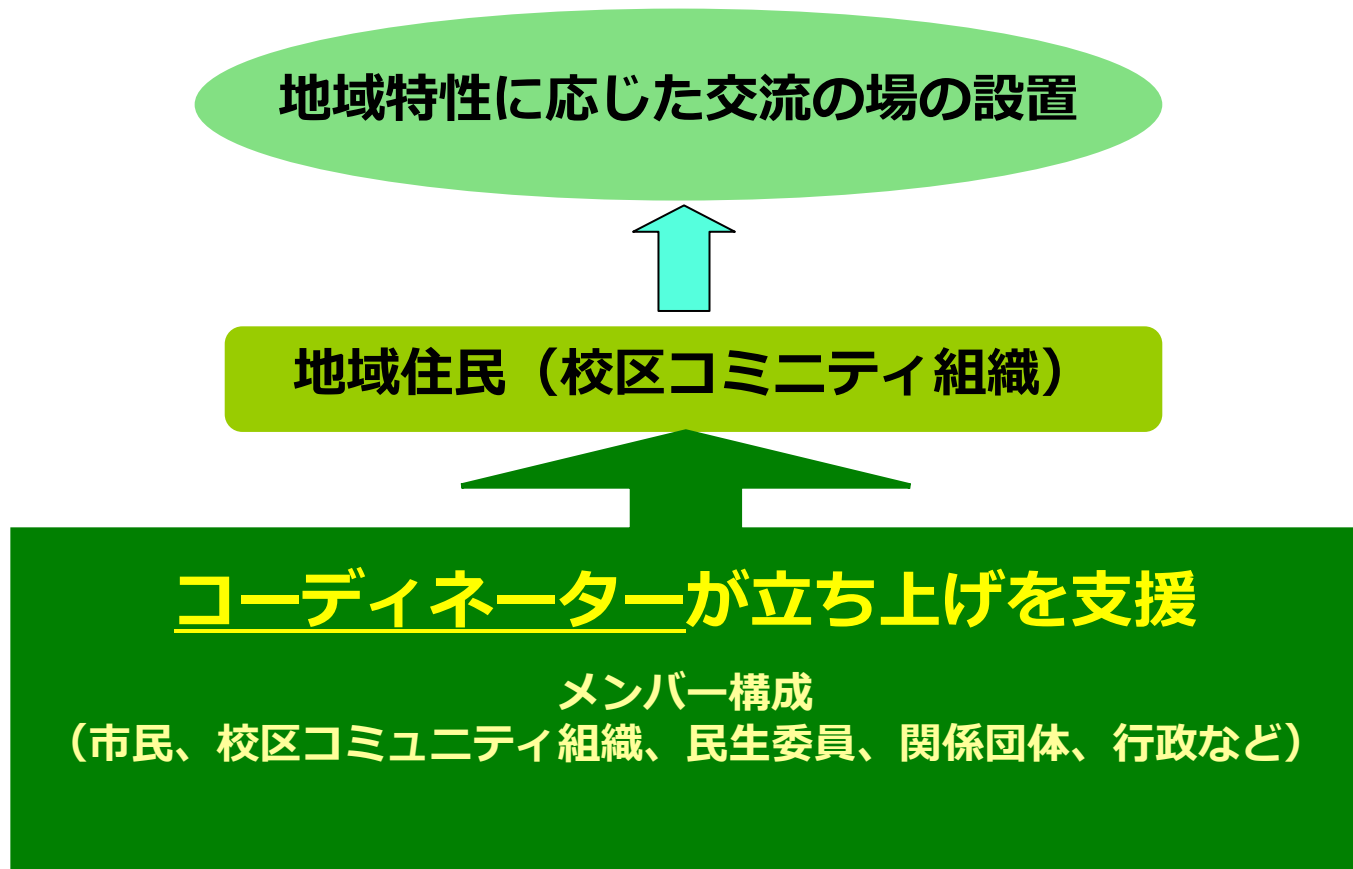
支え合いの地域づくり

市民・校区コミュニティ組織・民生委員・自治会
関係団体・行政が**協働**し、地域で互いに支え合い、
地域特性に応じた交流の場作りを
支える体制の構築を目指します！



1、ふれあい交流コーディネーターの設置

交流の場の設置に向け、立ち上げや運営などのサポートを実施



2、モデル校区の設置

プロジェクトに賛同していただけるモデル校区を選出。

プロジェクトの説明実施後、モデル校区を募集

趣旨に賛同した校区が応募

モデル校区の選出
(高齢化率の高い校区、住民間交流が希薄化している校区など)

コーディネーターの支援を受け、交流の場の設置

取り組み②



気軽に集まれる場所づくり

身近な地域の中に、誰もが気軽に参加できる場を作り、
高齢者だけでなく世代間交流も含めた、
地域のつながりや**絆が育まれる場づくり**を
目指します！

各自治区
1箇所



1、地域資源の発掘及び利用促進

地域にある空き家や自治公民館、介護施設や企業施設、空き店舗等
ぶらりと立ち寄れる交流の場として活用できる資源を発掘し
その利活用を図ります。

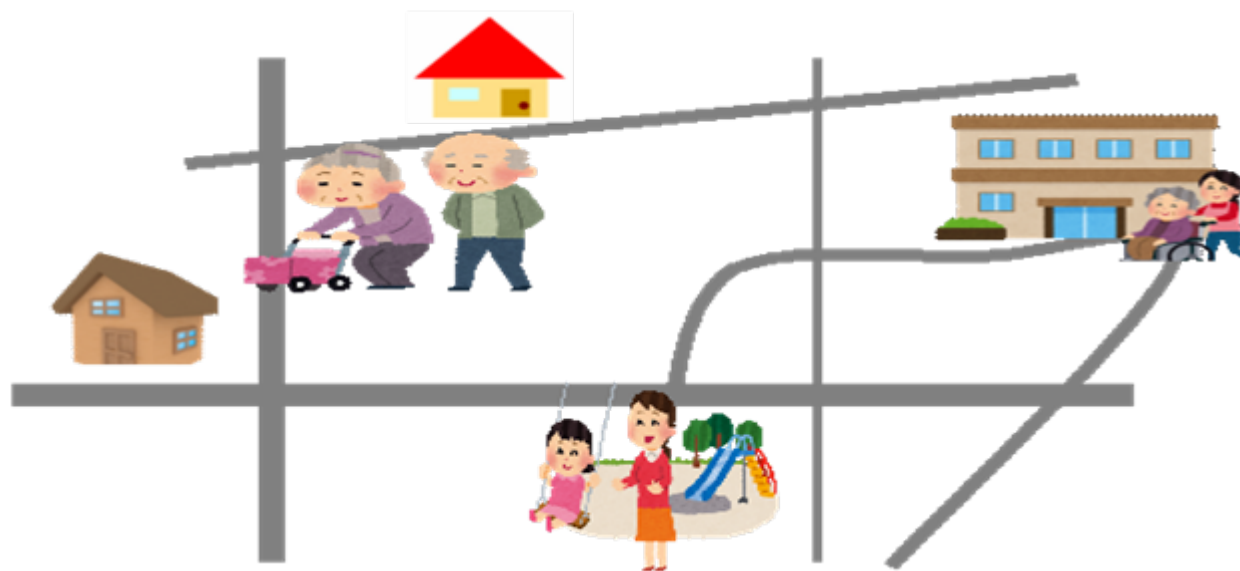


地域にある資源を発掘

利活用を図り、地域を活性化！

2、ふれあいマップの作成

多くの人交流の場（ぶらりよってこカフェ）を利用できる様に、
身近な地域にあるふれあい交流の場を掲載した
地図を作成します。



利活用を図り、地域を活性化

取り組み③



高齢者を支える人財を育む

ボランティア活動に従事する者の
負担感の軽減や活動意欲の促進につなげます。

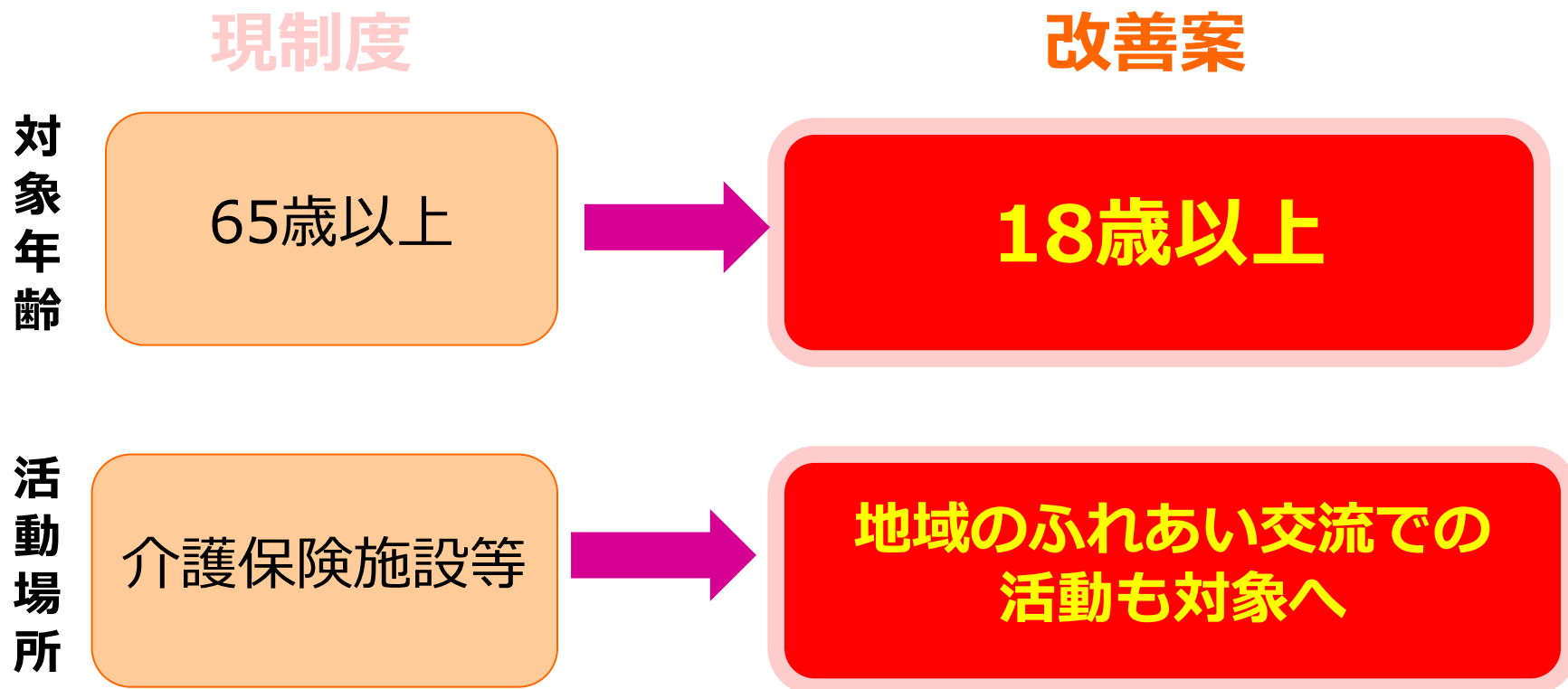


**負担感の軽減
活動意欲の促進**



1、よかよか介護ボランティア制度の見直し

登録された介護施設等でボランティア活動を行うとポイントが貯まる制度の対象を拡大。



2、ボランティアに関する講座の見直し、検討

既存のボランティア養成講座の内容を見直し、
より現実的な活動に繋がるようなプログラムの採用や、
ボランティア体験講座の実施

フォロー講座の開催により、具体的な活動に繋がる仕組みづくり。

活動につながるプログラム

ボランティア体験

フォロー講座の開催

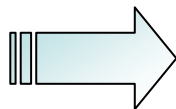


3、多様な人財を活用できる体制の構築

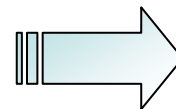
より多くの世代や人財が、高齢者のふれあい交流支援に主体的に自由に参加できるしくみ作り。

地域住民間のふれあいやつながりを深め、地域の活力向上につなげる

ふれあい交流支援



地域の絆



地域の活力向上

市民・関係団体・行政
役割分担



住民の声を
伝える

活用できる
資源を発掘

参加の
声かけ

市民の役割

ボランティア
活動へ参加

補助金の
活用

受益者負担
1回500円以内





課題検討
組織立ち上げ

地域の声
集約

関係団体等の役割

施設や人財
提供

ふれあいマップ
作成

サロンでの
声かけ

人財育成ノウハウ
資料作成

空き家利用
助成や支援



よかよか介護
ボランティア
制度拡充

行政

地域組織へ
説明会

連絡協議会
設置

コーディネーター
養成





「ぶらり よってこ カフェ」は

誰でも気軽に参加できる
交流の場

人々のつながりや絆を深め
互いをおもいやり・支え合う

安心・安全な地域づくりです

ご清聴ありがとうございました



協働ワーキング提案の概要

高齢者第2グループ

堀口 敏憲、古賀信夫、坂田拓真、最所 崇、
江頭敏夫、松本忍み子、一ノ瀬イツミ、菊池晋兵

ワーキングテーマ：

高齢者の日常生活を地域で支える仕組みづくり

提案する取り組みは2事業

- 1、高齢者（60歳以上の単身生活者）と校区コミュニティ組織・自治会・民生委員等との交流イベントの実施**
- 2、久留米市高齢者おたすけインターンシップ制度**

提案事業

高齢者（60歳以上の単身生活者）と校区コミュニティ組織・自治会・民生委員等との交流イベントの実施

現状・ 問題点

- ・ 高齢者のいる世帯は増加傾向にあり、その中でも一人暮らし高齢者世帯は、そのうちの約4分の1の割合で近年は推移している。
- ・ 一人暮らしの高齢者の中には、自分の住んでいる地域で過ごす時間が多いものの、地域の方々と知り合う機会が少ないため、人生で培った知識・経験などを発揮がなく、また、地域の中で支え合う場が少ないと感じている方々も多い。
- ・ 行政・社会福祉協議会・地域包括支援センター・保健所・警察・消防・民生委員・校区コミュニティ組織・自治会・市民公益活動団体・事業所等が活動し、高齢者の生活を支えるために尽力している。しかし、これらの活動が対象者の参画意識及び情報量の不足から十分な成果が得られず、上記の課題解消につながっていない面もある。

目指す 姿・状況

一人暮らしの高齢者が地域の活動に参加し、仲間とともに地域を支え合って日常生活をしている。

市民(60歳以上の単身生活者)(啓発)

- ・主催者への協力(積極的に参加をして行政への協力)
- ・主催者との交流により、生活に必要な情報(健康づくり、生活支援団体、相談先、安全、医療・介護等)を積極的に収集する。
- ・主催者及び参加者と積極的に交流を図り、イベント後における自主的な地域活動や交流につなげる。

関係団体等

1 校区コミュニティ組織等

- ・交流イベントの企画・運営を行う。
- ・交流イベントの意義について参加者が十分に理解するための事前説明会の実施。
- ・地域で活動する地域コミュニティ等の役員、自治会役員・民生委員、ふれあいの会・老人クラブ、関係諸団体の関係者等の参加と協力を呼びかける。
 - ・地域内広報にあたっては、個別パンフの配布、個別訪問の繰り返し等により、通常以上の広報を行う。
- ・きっかけづくりコンテスト(あなたに出会えてよかった)への参加。

2 久留米市校区まちづくり連絡協議会

- ・きっかけづくりコンテスト(あなたに出会えてよかった)の開催

行政

- ・ 財政的支援を行う
- ・ 交流イベント支援の対象は校区コミュにティとし、対象者の人員数により、イベント実施は各自治会単位も支援可能とする。
- ・ 交流イベント支援の開示にあたっては、趣旨説明を十分行う。
- ・ 交流イベント広報支援。

提案事業

久留米市高齢者活動支援インターンシップ制度

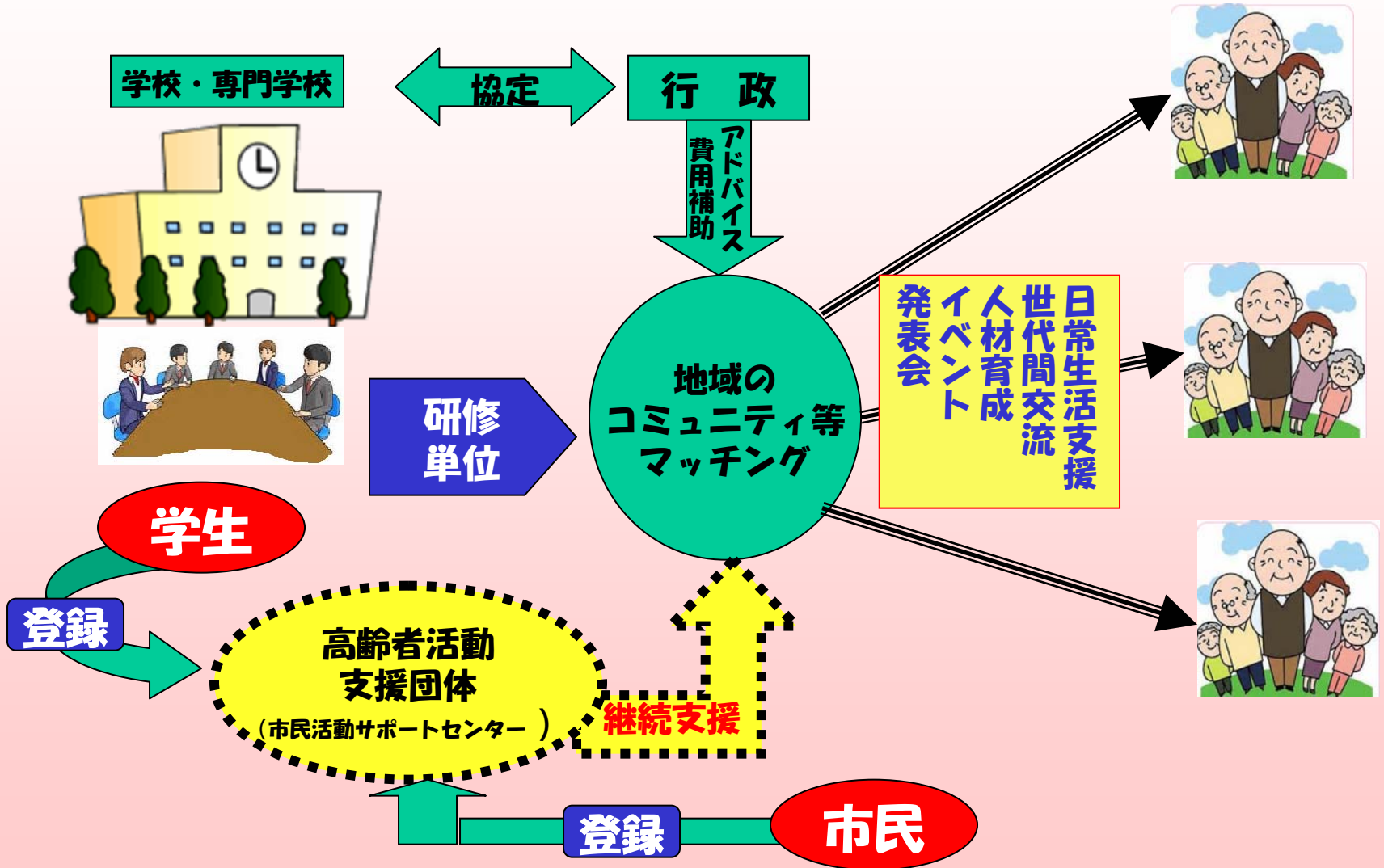
現状・ 問題点

加齢に伴う体力の低下等の要因のほか、高齢者の単身世帯や夫婦世帯及び高齢者のみの世帯の増加、近所づきあいの希薄化などにより、「食事の準備」や「掃除」などの日常生活上必要な作業が困難な場合に、頼ることのできる相手がいない等のケースが増えている。

目指す 姿・状況

- ・ 高齢者が住み慣れた地域でいつまでも安心して生活できる。
- ・ 学生を担い手とした高齢者の日常生活支援の実施
- ・ 世代間交流による相互理解を深め、多様な世代にとって住みやすい地域づくりの実現
- ・ 学生の地域活動への参加促進による地域の活性化

②久留米市高齢者おたすけインターンシップ制度



関係機関①（校区・自治会・民生委員）

- ・ 支援を必要とする高齢者の選定
- ・ 受け入れ時の見守り・助言
- ・ 学生と職務遂行（民生委員）
- ・ 受け入れ後の見守り等の地域活動の見直し・実施

関係機関②（教育機関（大学））

- ・ 講座内容の検討→講座開講→成果発表会開催→単位の授与
- ・ 行政との協定締結
- ・ 受け入れ時の見守り・助言

行政

- ・ 制度設計（関係機関①との調整含む）
- ・ 教育機関との協定締結
- ・ 地域への説明、高齢者と学生のマッチング
- ・ 地域の受け入れに関する支援
- ・ 受け入れ時の見守り・助言
- ・ ハピエンの運営

市民（学生以外）

- ・ ハピエン（高齢者活動支援団体）への登録
- ・ 高齢者支援活動

1. 背景・目的

高齢者は、身体的な理由や地域との交流の希薄化等により、健康で充実した生活を送れない状況や地域活動に支障をきたす状況に置かれるなど、日常生活の様々な場面において支援が必要となることがある。こうした中で、現在でも多様な手段により、そのような高齢者を支援している個人や団体はあるものの、十分な支援につながらないケースも多く見られる。

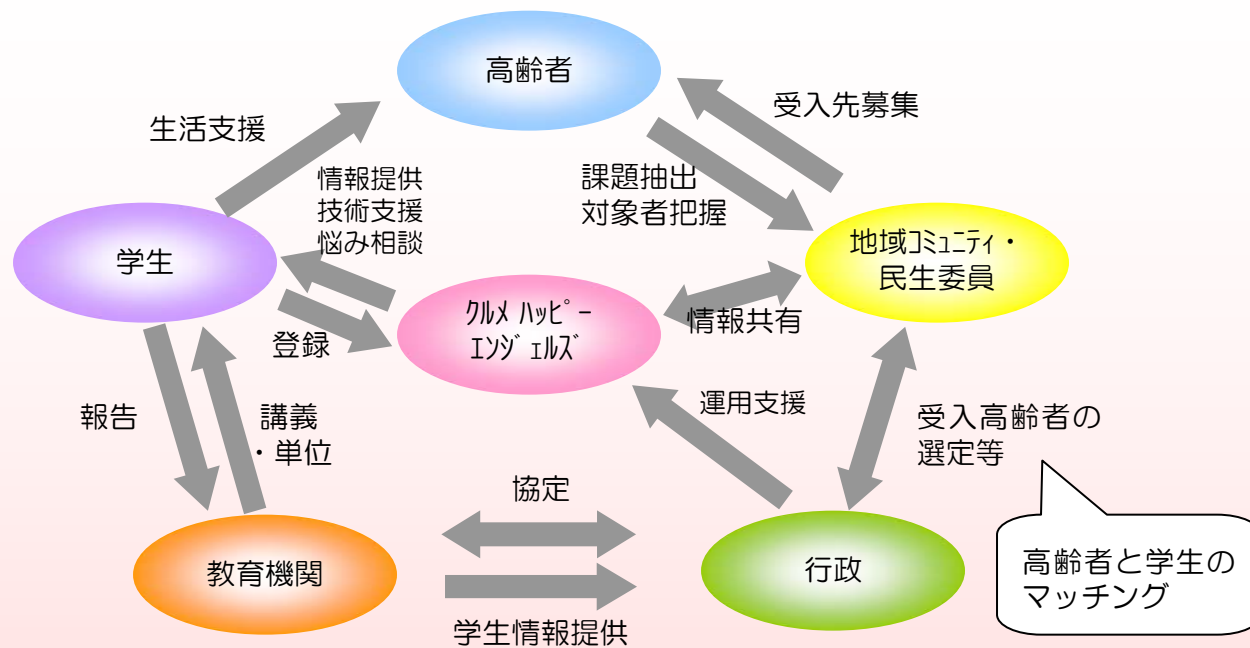
そこで、これから社会の中で中心的に活動する若者（今回は大学生、短大生、専門学校生、高専生、高校生を想定）を新たな支援の担い手として位置づけ、彼らが実際に地域に入り、高齢者と共に生活して生の生活支援活動を行うことで、上記課題を解決に寄与することを目的とする。

2. 期待される効果

高齢者の日常生活支援を図るとともに、これから社会で活動する若者の貴重な経験として蓄積され、今後の市民活動の活性化・促進を図る。また、若者と高齢者をはじめとする地域との交流がなされることで、地域の活力を創出することが期待される。

さらに、高齢者の日常生活において困難となりがちな事柄やその要因、それらに対する効果的な支援・解決策について教育機関において研究・検証し、データ・知識を蓄積し多方面へ教授していくことが期待される。

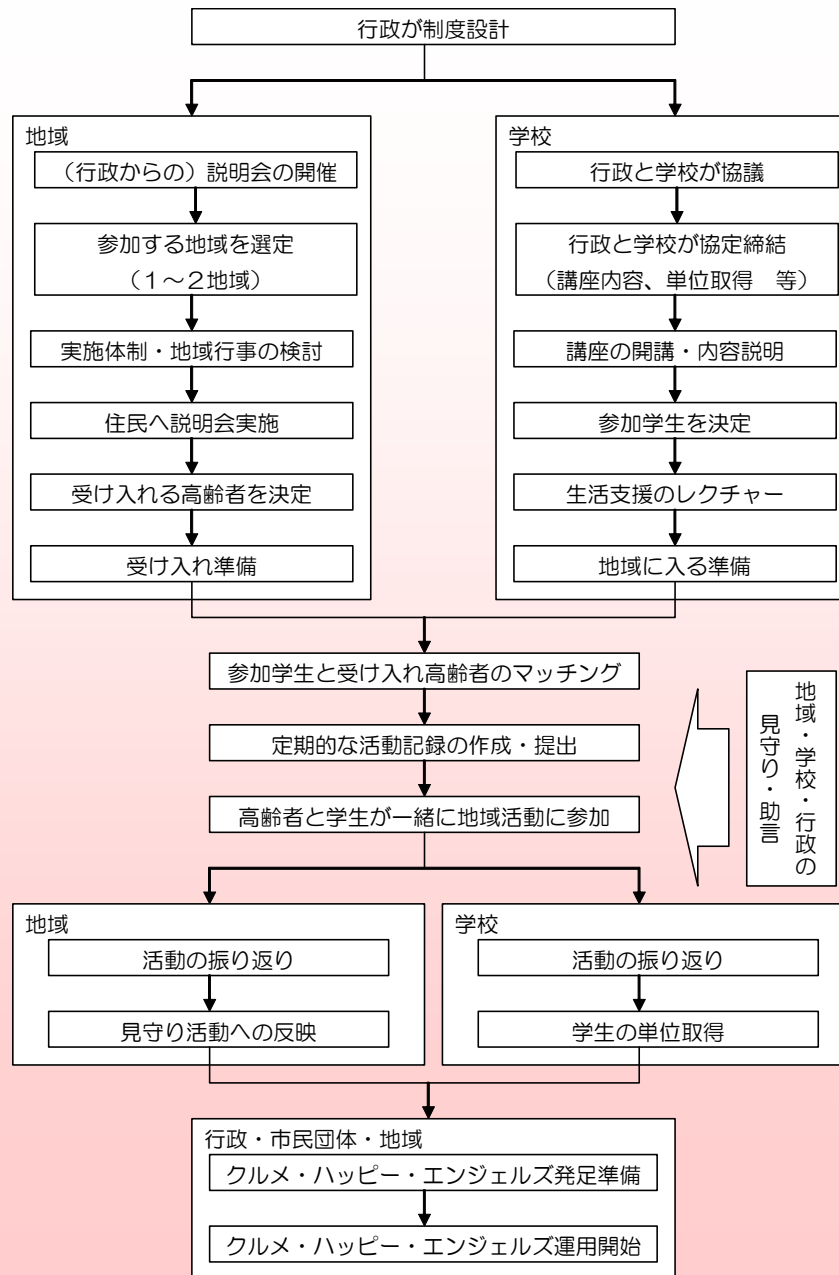
3. 主体間の関係



4. 取り組みポイント

- ・ 学生が高齢者宅等にて日常生活の支援を実施
- ・ 学生と高齢者が地域活動に参加
- ・ 学校は学生に単位を付与
- ・ 学生の高齢者の日常生活支援をはじめとする市民活動の受け皿となる組織の運用

5. 取り組みの流れ



6. 取り組みの内容

(1) 高齢者の日常生活の支援

目的	高齢者への支援を体験することで、学生が高齢者への理解を深め、実践的な技術を修得する。	
支援日	対象期間のなかで平日を基本とし、地域のイベント時は休日も実施	
支援時間	9時～17時を目安に、具体は当事者同士で調整	
支援場所	高齢者の自宅および自宅周辺	
活動費	学生の交通費、食費、物品購入費等の支援活動に伴う費用は要検討	
対象者	学生	久留米市と協定を締結する教育機関の学生を対象とする。ただし、高齢者福祉や地域活動に興味のある学生（学科、専攻は限定しない）の参加を想定しているが、当初は専門的に学習している学生を対象として開始することも有用である。
	高齢者	日常生活での支援を必要とする自治会に加入している高齢者を対象とする。支援の必要性の目安として、介護状態区分の要支援1、要支援2、要介護1を想定している。
支援内容	高齢者の日常生活の介助を行う。 ※あくまで活動主体は高齢者であり、学生はお手伝いさんではない ※教育機関・地域・行政が技術面や精神面等を全面的に即応できるよう体制の構築が必要 ※支援例：買い物に同行、階段昇降時の支え、届かないところのものを取る、一緒に草むしり、一緒に掃除、ゴミ出し…	

(2) 地域活動への参加

目的	地域のイベントに参加することで、学生が地域とのつながりを身近に感じ、地域活動への参加のきっかけづくりとする。
支援日	地域のイベント日（休日については当事者同士で調整）
支援時間	イベント開催時間による。なお、当事者が主体となるイベントの場合はその準備から学生が参加することも可能
支援場所	地域のイベント会場および高齢者の自宅
活動費	要検討
支援内容	①地域が開催する文化祭やスポーツ大会、清掃活動へ高齢者が学生と一緒に参加する。可能であれば学生は企画から参画する。 ②地域住民が運用している趣味のグループへ高齢者が学生と一緒に参加する。可能であれば学生が企画して実施する。

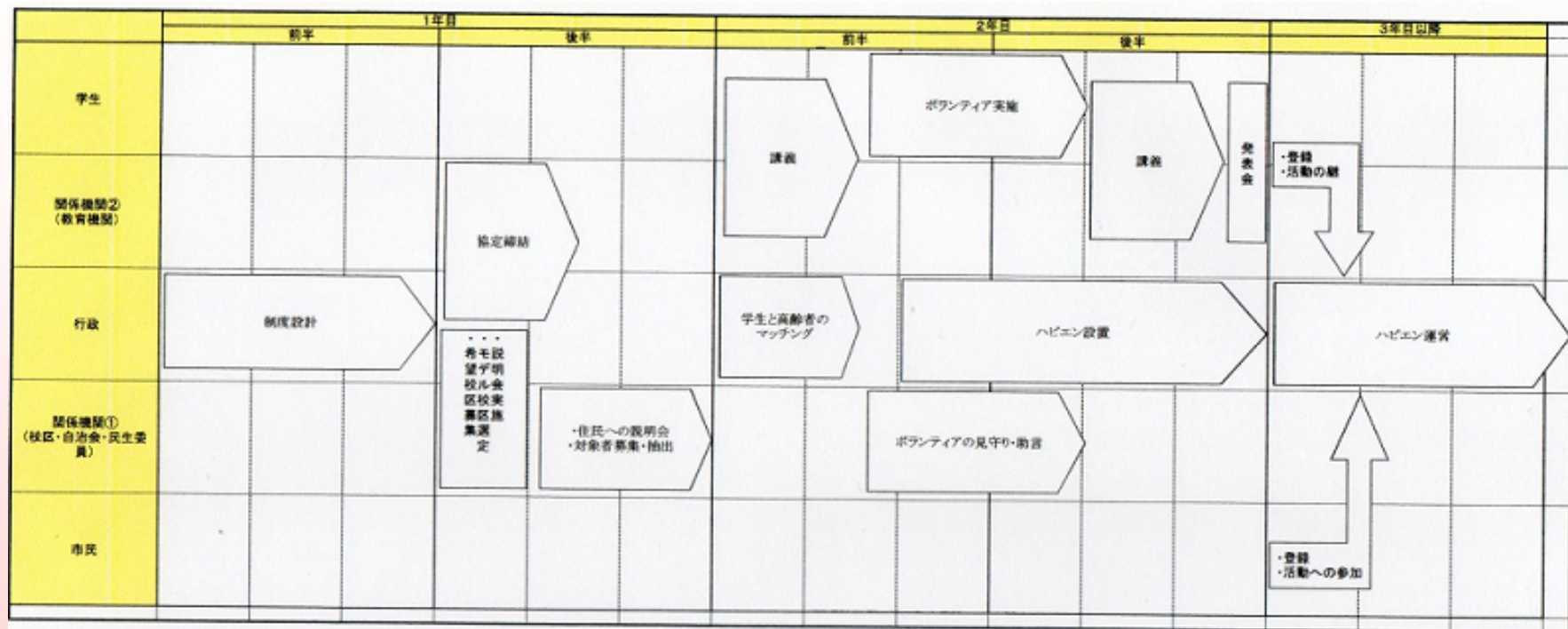
(3) 教育機関での講座開講

目的	支援が必要な高齢者の行動と効果的な支援策を学術的に検証する。	
開講期間	通年（事前学習⇒実践⇒振り返り⇒成果発表）	
講座時間	90分/回	
会場	講座	教育機関
	成果発表会	くるめシティプラザ
支援内容	①高齢者の支援に関する講義を実施し、受講者の一定程度の知識と技術を修得させる。 ②更なる技術の向上を図るため、実践結果をフィードバックして問題点や課題、対応策を検討 ③とりまとめた成果を学外で発表	
条件	教育機関の講座とするため、行政と教育機関による協定を締結する。 ⇒受講生は単位を取得可能	

(4) クルメ・ハッピー・エンジェルズの運用

目的	インターンシップに参加した学生のインターンシップ後の活動促進、およびそれ以外の若者の高齢者への支援活動の促進を図る。
活動期間	通年
活動時間	9時～17時
活動場所	事務局（久留米市市民活動サポートセンターを想定）
支援内容	<p>①高齢者支援に関する活動の受け皿となる団体（クルメ・ハッピー・エンジェルズ [略称：ハピエン]）を立ち上げ</p> <p>②ハピエンに登録したインターンシップ後の学生や、高齢者支援活動をしたいと考えている若者に対し、情報提供、技術支援、活動費支援、悩み相談等を行い、高齢者支援活動を支援する。</p> <p>③地域からの高齢者支援や地域活動等に関する応援要請も受ける。</p> <p>④市内外における災害時には避難所等へのボランティア活動への協力にも対応する。</p>

7. スケジュール



8. 各主体の役割

行政	教育機関	地域
<ul style="list-style-type: none">• 制度設計• 教育機関と講座について協議 ⇒協定締結• 地域への説明 ⇒学生とのマッチング• 地域の受け入れ支援• 受け入れ時の見守り・助言• ハピエンの運営	<ul style="list-style-type: none">• 講座の内容の検討• 行政と講座について協議 ⇒協定締結• 受け入れ時の見守り・助言• 講義の開催• 成果発表会の開催	<ul style="list-style-type: none">• 受け入れる高齢者の選定• 受け入れ準備• 受け入れ時の見守り・助言• 受け入れ後の見守り等の地域活動の検討・実施

9. 今後の展開

久留米市以外の学生も巻き込むことで、久留米市のPRや久留米市での定住促進にも繋がるような展開も期待したい。

提案する取り組みは2事業

- 1、高齢者（60歳以上の単身生活者）と校区コミュニティ組織・自治会・民生委員等との交流イベントの実施**
- 2、久留米市高齢者おたすけインターンシップ制度**

終わり

市民・関係団体等・行政の健闘を期待いたします